

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成31年度採択）

事後評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
31-3	交通・物流・交流・防災拠点としての道の駅の性能照査と多目的最適配置に関する研究	長岡技術科学大学 教授 佐野 可寸志	B

<研究の概要>

道の駅を交通、物流、地域交流および防災拠点として活用するための機能を論じ、広域ネットワークでの拠点間の近接性等を踏まえて、拠点毎に各機能の有効性を指標化する手法と多目的最適配置計画手法を確立する。

<事後評価結果>

- ・道の駅が広く普及する中で、その位置づけについて、平常時及び災害時における新たな役割を見出しつつ、その観点からの評価手法を樹立した研究であり、大変大きな意義を有する。
- ・「道の駅」の評価や配置に関し、用いた方法論は古典的であるものの様々な知見が得られている。特に構築したデータベースや簡易評価システムは実務等において有用であると期待が持てる。一方、多目的最適配置に関する研究はヒューリスティックで改善の予定が残されている印象である。
- ・道の駅に求められる性能や機能は何であるのかについての検討がもっとなされるべきであったように思われる。
- ・道の駅は第1に観光関連の施設として見られることが多いのではないかとと思われる。効率的、効果的な投資を行うための新しい視点を提示した研究であると思われる。
- ・道の駅の多様な評価を行っており、新規の道の駅の立地や既存の道の駅の機能付加等に活用が可能と思われる。
- ・本研究により構築された手法により道の駅の最適配置計画の立案に活用が期待できる。
- ・利用状況分析、広域交通及び地域拠点としての性能照査、道の駅の最適配置計画について、一定の知見が示された。各地域での道の駅の新設・機能向上の活用にはさらに検討が必要である。
- ・このことから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。

<参考意見>

- ・作成された広域交通の休憩機能、防災拠点機能、公共交通の交通結節点機能を評価する簡易評価システムのプロトタイプとして、実務への活用が期待される。引き続き、同システムの完成に向けて、全国レベルでの道の駅の性能を評価するデータ等を対象として研究を進めて頂きたい。
- ・研究タイトルに「性能照査」とあり、報告書でもこの言葉が多く用いられているが、実際に行われているのは、「将来予測」や（便益等による）「評価」である。要求性能や性能規定が最初に示された上で、その性質が満足されることを分析を通じて照査することが性能照査であると思われるので、研究成果等の对外発表等の際には留意された方が良いと思われる。
- ・今後の研究で、自動運転の拠点機能についてもモデルに組み入れることを検討してはどうか。

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第46回新道路技術会議において審議したものである。